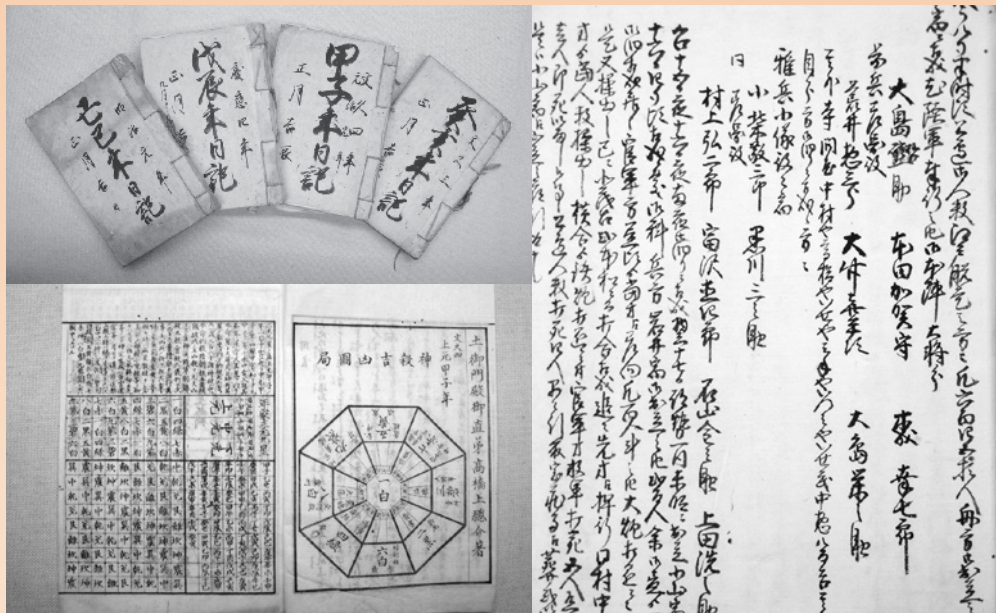




▲館野重左衛門の日記(一部) [左上]、高橋上総介著「神殺明覧」[左下]
慶応4年4月15日の日記 [右]

天狗党の乱と重左衛門

重左衛門が入門した高橋上総介と大久保七郎左衛門が参加した天狗党の乱(元治の内乱)は、元治元(文久4年2月に改元・1864)年3月27日、水戸藩の尊王攘夷激派が筑波山に挙兵したことにはじまります。

筑波山に挙兵した田丸稲之衛門を大將とした一行は、筑波山を下りて同志の多い宇都宮に向かいますが宇都宮藩に阻止され、つぎに日光に向かい東照宮参拝だけ許されましたが日光奉行に反対され、4月14日には太平山(栃木市)に陣を張り、そこで一行は軍資金集めに奔走しました。

日記の4月21日、重左衛門は中村三郎兵衛ほかと共に太平山参詣と称して七時半(午後4時)頃出立し間々田宿本陣に宿泊、翌日に太平山に参詣し、栃木町の角屋に宿泊します。22日の記載の中に「但、山内にて高橋氏大久保氏へ千疋ずつ餞別差出候事」とあり、太平山内で師である高橋上総介と大久保七郎左衛門に会って、軍資金を献金していたことがわかります。

戊辰戦争と諸川町

慶応3(1867)年15代将軍徳川慶喜は朝廷に大政奉還し、江戸幕府の政治支配は終わることになります。翌慶応4(明治元・1868)年1月、京都南方の鳥羽・伏見で幕府軍と討幕軍が衝突し(鳥羽・伏見の戦い)、戊辰戦争が始

まりました。4月11日には、幕府の陸軍総裁勝海舟と東征大総督府参謀の西郷隆盛との間で降伏交渉が重ねられ、江戸城が無血開城されましたが、幕府の歩兵奉行をしていた大鳥圭介は降伏を不服として江戸城を抜け出し、向島(墨田区)で配下の伝習隊と、市川(千葉県市川市)で旧幕府軍とそれぞれ合流して日光・宇都宮をめざしました。そして4月15日、大鳥圭介らの軍勢は仁連・諸川町に入ります。

当日の日記には、諸川町本陣に大鳥圭介(日記には大鳥啓介と記す)他5名、重左衛門宅には小柴敬三郎ほか6名が宿泊、その他問屋・中村屋・高橋屋・いせや・みねや・いつみや・いせ武・中惣・八百吉などが宿所にあてられました。軍勢は15・16日と2泊し、17日未明に小山宿に向かい出立し、北茂呂二本松(結城市)附近で官軍と鉄炮の打ち合いになったと記しています。

以上、館野重左衛門の日記から幕末・明治の様子を少し紹介しました。

現在、三和資料館で開催中の館蔵資料展「日記の世界」では、今回取り上げた日記をはじめ、江戸時代から昭和の日記類を展示し、その性格や内容などを紹介しています。12月25日まで開催していますので、ぜひご観覧ください。

三和資料館学芸員 小林 靖